



# インクルーシブ教育実践論

## 「ふつう」アップデート

一般社団法人 UNIVA との連携授業を行いました！

開催日時：2025年10月1日(水)9時00分～10時30分

実施方法：対面講義（講師はオンラインでの登壇）

講師：野口 晃菜 氏（一般社団法人 UNIVA 理事）

担当：岡村章司教授、小川修史教授

第1回の授業では、「誰もが過ごしやすい社会のためのふつうアップデート」をテーマに講義を実施しました。

まず、野口氏より冒頭に「多様性」「協働」をキーワードとした話題提供がありました。社会モデルの考え方を解説し、多様性が当たり前の学校づくりのためにどう変わるかの問いが投げかけられました。学生にとっては具体的な例を交えながら、自身の「ふつう」を考える機会が多く設定されました。講義中や講義の後には、適宜学生へ問いが出され、スマホを通じた学生の回答をもとに講義が進められました。

話題提供に続いて、ディスカッションを実施しました。ディスカッションでは、自らの「ふつう」に疑問を持つこと、常に「ふつう」のアップデートを行うためにできることを考えること、多様性を認めていくために他者と対話し協働することの重要性について活発に意見交換がなされました。学生からは意見を述べることと「わがまま」の違いについて

の質問があり、「わがまま」をどう捉えるかについて議論しました。

事後アンケートでは「世の中の普通をアップデートするという考え方はなかったから衝撃的だった」「誰もがマイノリティであると考えることにとっても新鮮さを覚えた」「お互いの「普通」をアップデートしていくことで対立を減らすことができる」といった「ふつう」の捉え直しがあったという回答や、「対話や寄り添う力が理解する第一歩だ」「話し合いのプロセスが大切で目的は「解決」ではない」といった対話の重要性に言及する回答が多く確認されました。また、「これからの学校のあり方を考える良いきっかけになった」「（子どもが）快適に過ごせる学級づくりをしたい」など、教師としての立場から考える意見もみられました。

「気がつきがあったか」「考えの変化があったか」という問いに対しては、ともに98%の学生が「あった」「どちらか」というとあった」に回答していました。